

トーマツ 統合報告/サステナビリティ関連ニュース

統合報告アドバイザリー室

CDSBが環境・自然資本についてメインストリームの報告書で報告するための新フレームワークを発表

CDSB (Climate Disclosure Standards Board) が新しく発行したフレームワークでは、環境に関する情報や自然資本についてメインストリームの報告書で報告するためのアプローチを提示している。CDSBは、分析や投資家の意思決定において、経済と金融の安定性が自然資本に依存し、また自然資本に影響を及ぼしているという認識が促進されることを望んでいる。フレームワークの目的は、組織の環境パフォーマンスと、組織全体の戦略・パフォーマンス・展望を結びつける情報を、企業が明確で簡潔かつ首尾一貫した形で投資家に提供することを支援すること、そして、それによって自然保護の支援活動に金融資本を割り当てる投資家の意思決定を実現し、促進することである。また、レポートの負荷を削減し、プロセスを簡素化して、組織の既存のメインストリームの報告書に付加価値を与えることも目的としている。プレスリリースとフレームワークはCDSBのウェブサイトですべて入手可能である。

また、CDSBはIIRC (International Integrated Reporting Council) との相互協力に関する共同声明に調印している。企業が自然資本に依存し、また自然資本に影響を及ぼしているというこの報告が、統合報告にとって非常に重要であるとの観点から、CDSBとIIRCはそれぞれの役割が相互補完し合う関係であると認識している。

詳細は以下をご参照ください。

CSR・サステナビリティ・温暖化記事一覧 記事 (2015.06.16)
(<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/risk/topics/csr-sustainability-and-global-warming.html>)

GRIが2025年のサステナビリティとそのレポートのトレンドについての分析報告書を発行

The Global Reporting Initiative (GRI) は、「レポート2025プロジェクト (Reporting 2025 Project)」による最初の分析報告書 (Analysis Paper) を発行した。このプロジェクトは2025年を見通したサステナビリティのレポートと開示の目的に関する国際的な議論を促すために計画されたものである。二番目の報告書が2015年9月、最終報告書は2016年1月に発行される予定である。

これまでに得られた見識は以下の通りである。

- 企業は過去のどの時点にも増して、説明責任を問われることになる。
- ビジネスの意思決定者はサステナビリティの問題をより深く考慮するようになる。
- 科学技術の進展によって、企業やステークホルダーはデータにアクセスし、照合し、チェックし、分析し、相互に関連付けることができるようになる。
- 科学技術の進展によって、企業は事業運営とレポートを高度に統合できるようになる。
- 倫理的な価値、レピュテーションやリスクのマネジメントに基づいて、意思決定者が行動するようになる。
- 新たな指標 (KPI) が出現する。
- 報告書の作成は、規制対応と自主的なプロセスの両方に起因する。
- サステナビリティのデータはデジタル化され、年次ではなく逐次報告されるようになる。

詳細は以下をご参照ください。

CSR・サステナビリティ・温暖化記事一覧 記事 (2015.06.01)
(<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/risk/topics/csr-sustainability-and-global-warming.html>)

『トーマツ統合報告&サステナビリティ関連』のお問い合わせ先：

ご意見・お質問はホームページ (<http://www2.deloitte.com/jp/ja/pages/strategy/solutions/cc/corporate-communications.html>) のお問い合わせフォームをご利用、又は、統合報告アドバイザリー室 (03-6213-1540) までご連絡ください。